

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。中間テストも終わり、電流の単元も大詰めとなっているあたりですね。研修の方もあとわずかとなりました。今回のスポットは「ワニ」、せっかく動物園にいるのですからペットとしてあまり飼わない動物を紹介します。

過去の恐竜の姿によく似た虫類を探すとカゲの仲間があげられますが、恐竜のもっとも栄えていた時代に一緒に繁栄していたのがワニのなかまです英語でワニをさす単語を探すとクロコダイルとアリゲーター



のどちらかが見つかるでしょう。円山動物園では、「ガビアルモドキ」と「ヨウスコウワニ」を飼育しています。

ちょうどガビアルが口を大きく開けたまま止まっていたので正面からとってみました。ほ乳類の歯は、形は違っても門歯、犬歯、臼歯などに分けられますがワニの歯は見事に同じかたちの歯が並んでいます。肉食恐竜の歯も同様ですべてが犬歯というイメージです。



次からだに比べて短い4本の足を見えます。前後の足の大きさがずいぶん違いますね。トラとは逆に後ろ足が立派です。これは2本足で活動していた恐竜の名残と考えるのが自然です。尾も何となく恐竜

に似ていませんか。でも、大きさの方は恐竜とはいえないくらい小型です。(それでもガビアルの方は結構大きい)恐竜が絶滅していく中、からだを小型化することで生きのびてきた証ですね。

さて、こちらはヨウスコウワニです。ぽっかりと水に浮いています。目や鼻が水面からちょっとだけ出ている水中での生活にうまく適応している様子がわかります。ところで、「ガビアル」と「ヨウスコウ」、口のかたちがずいぶん違うと思いませんか。それ以外にも違



いがありますのでよく調べてみてください。

ちょっとしたことに気づくと、ワニも興味を持って見ることが出来ますね。そして恐竜とのつながりなどわくわくしますね。(ワニ目クロコダイル科、アリゲーター科)

ヨウスコウワニとガビアルモドキ

ヨ) 中国の揚子江地域に生息する淡水性のワニ。全長2 m 位の小型、性質は比較のおとなしく魚などを食べている。現地では冬に冬眠する。寿命は50年以上。

ガ) 東南アジアに生息する淡水性のワニ、最大5 m 位、吻部が極端に細長いのが特徴、魚を捕らえて食べる。ガビアル科ではなくクロコダイル科なのでモドキとついている。

秋の遠足のシーズンとなり、札幌市内からは多くの小学生が来ていますが、中学生は少ないようです。テキストが終わったからおしまいではなく、新しい発見をしてみませんか。理科の基本は違いを見つけることです。動物園は絶好の教材ですよ。是非利用してくださいね。そして、調べたことは、写真やスケッチを添えてレポートしてくださいね。では、また。